

授業科目 哲学

【担当教員名】 渡辺 信也	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語・藝芸・栄養・林・看護・社会
	開講時期	前期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：G I O>】
 哲学とは元来「自己とは何か、世界とは何か」を問うものである。本講義ではこの本来の問いを真正面から取り上げ、哲学史の流れに沿って、「自己と世界」にまつわる諸思想を批判的に検討していくが、これは単なる基本知識の習得を目指すものではなく、学生自身が自ら主体的に問題に取り組み、相対立する思想のせめぎあいのなかで、自らにとっての真実を模索し、大学生らしい人生観・世界観を確立するよう促すことを目標とするものである。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】
 「自分探し」という言葉が人口に膾炙（かいしゃ）して久しいが、現代の科学や哲学においてはむしろ、「自己などというものは存在しないのだから、自分探しなんておやめなさい」と説かれることが少なくない。これは前世紀の思想の一つの帰結なのだが、若者の哲学的要求を蔑ろにしかねないという問題を孕んでいる。本講義では、こうした思想が説かれるに至った経緯を、狭義の哲学にとどまらず、心理学・脳科学・東洋思想等からも取材しつつ総合的に検討し、その問題点を超克する道を探る。こうした作業を通して、聴講者は哲学研究の実際に触れると共に、自らも問題に立ち向かい、思索を深め、自分なりの答えを探究するよう促される。哲学には、問題に対する既成の正解が存在するとは限らず、むしろ自ら問題を探究し、解答を獲得していく過程こそ哲学の特質がある。哲学的探究に触れることを通じて、単なる「学習」から大学における「学問」という営みの根幹に触れ、大学生としての基礎を培うことをも本講義は目標とする。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	現代の思想状況と自己否定論…現代における自己否定論について概説する。		講義
2	古代ギリシアの自己論（1）…ソクラテス・プラトンの霊肉二元論・輪廻説を検討する。		講義
3	古代ギリシアの自己論（2）…アリストテレスの心身一元論とその問題点を検討する。		講義
4	中世・近世哲学における自己論…デカルトの物心二元論・ホッブズの唯物論等を検討する。		講義
5	近現代科学における自己論…メトリーの人間機械論、養老孟司の「唯脳論」等を検討する。		講義
6	現代科学・哲学における自己論…前野隆司の「受動意識仮説」、デネットの「ヴァーチャル・リアリティ論」等を検討する。		講義
7	生氣論における自己論…ピアサルの「心臓エネルギー論」、中国思想の心身論を検討する。		講義
8	近代哲学の自己論（1）…カントの自己否定論を検討する。		講義
9	近代哲学の自己論（2）…キルケゴールの自己関係論・ニーチェの自己否定論を検討する。		講義
10	現代科学の哲学的世界観…ベイトソン・ヤンツらの「有機システム論」について論ずる。		講義
11	心理学の自己論…ユングの深層心理学、フロイトの精神分析論等について解説する。		講義
12	統合心理学・哲学における自己論…ケン・ウィルバーの自己論について解説する。		講義
13	仏教思想における自己論…唯識思想を中心に解説する。		講義
14	自己と世界のゆくえ…西田幾多郎・シュヴァイツァーを中心に東西思想の統合の可能性を探る。		講義

【使用図書】	<番名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	指定しない。講義時にプリントを配布する。			
参考書	随時講義中に指定する。			
その他の資料				

【評価方法】 筆記試験を実施する。	【履修上の留意点】 毎回講義終了時に簡単なレポートを提出してもらい、成績評価に加えるので積極的に取り組むこと。また可能な限り参考文献を参照すること。
----------------------	---

全
科
共
通
科
目
教
養